

## 志賀原子力発電所 2 号機 放水放射線モニタへの通水不良について

平成18年8月9日  
北陸電力株式会社

8月8日19時30分頃、志賀原子力発電所2号機（改良型沸騰水型、定格電気出力135万8千キロワット、7月5日から低圧タービン点検のため停止中）の放水放射線モニタ\*の定期清掃中、モニタ出口弁と配管の接続部（フランジ）にテープが貼られ配管が閉塞していることを発見しました。これにより、当該放水放射線モニタへ水が流れず、これまでのモニタの指示値が適正でなかったと考えられます。

フランジに貼られていたテープを取り除き、当該系統は正常な状態に復旧しました。今後、当該モニタへの通水を直接確認できるよう対策を講じる等、同様なことが発生しないよう、再発防止に努めてまいります。

液体廃棄物を放出する場合は、放出前にサンプリングにより放射能が検出されないことを確認するとともに、放出時は別途設けてある排水モニタで連続監視を行っているため、液体廃棄物の放出管理に問題はありません。放出前のサンプリング結果については、四半期毎にとりまとめ、安全協定に基づき自治体に報告するとともに、石川県の原子力環境安全管理協議会等において報告しています。

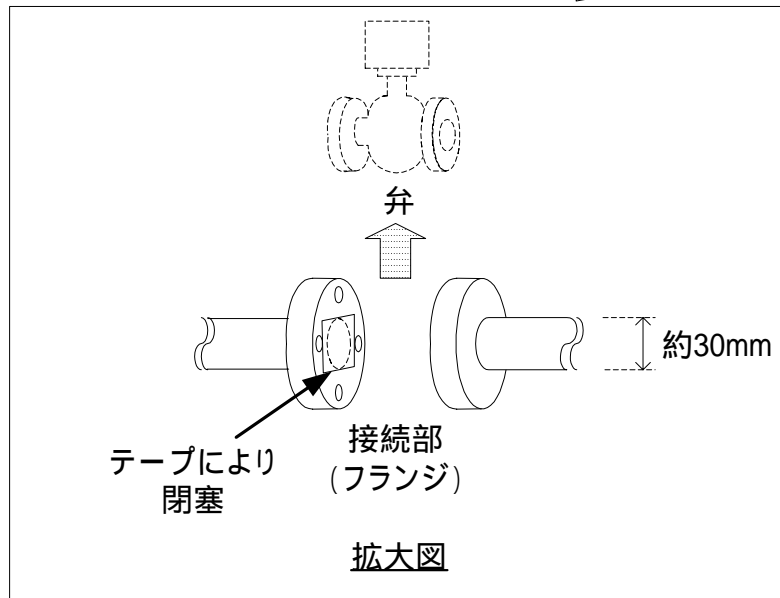
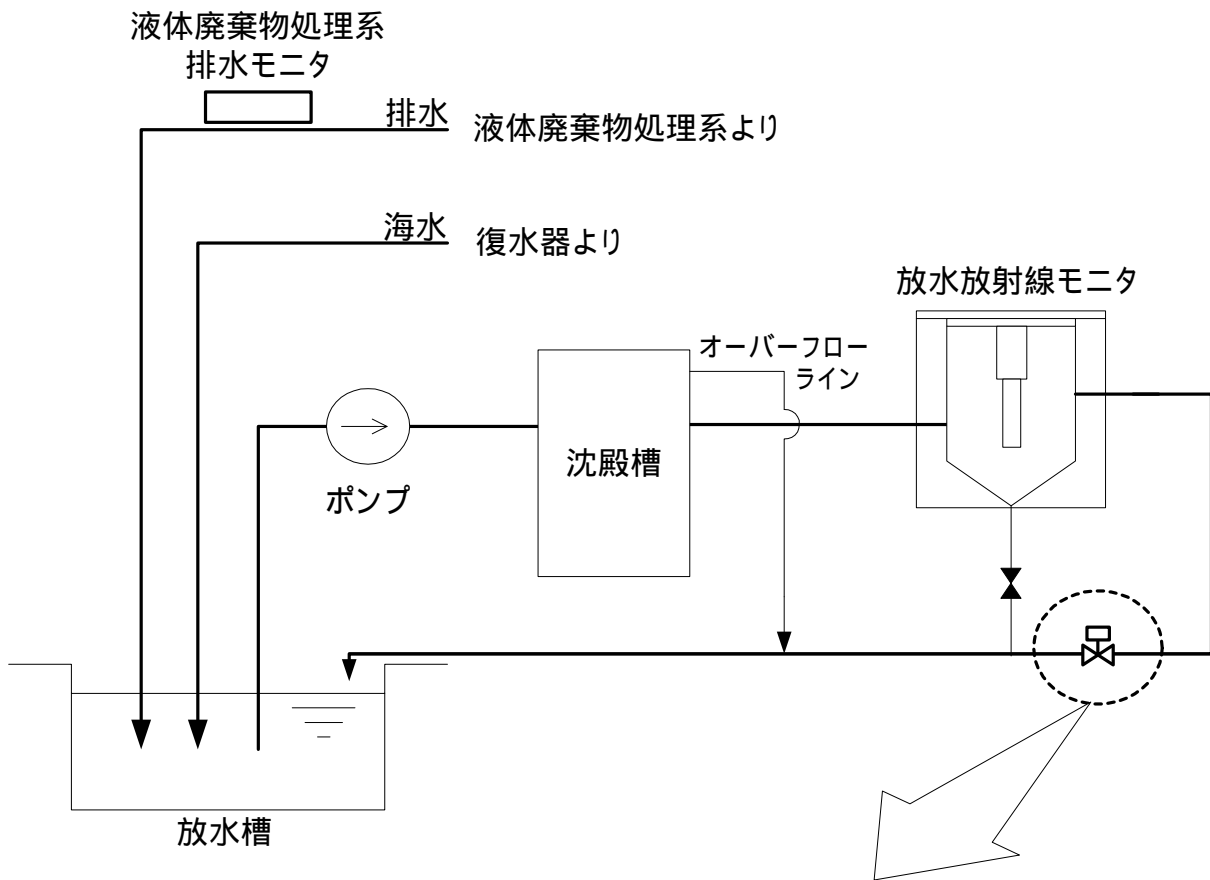
本事象については、石川県及び志賀町と締結している連絡基準に係る覚書に基づき当該自治体へ連絡しています。

なお、外部への放射能の影響はありません。また、1号機の放水放射線モニタへの通水についても、適正であることを確認しております。

以上

添付資料：放水放射線モニタの系統概要図

\*：当該放水放射線モニタは、発電所外へ放出される海水中に含まれる放射性物質の濃度を連続監視し、問題ないことを公開していくために設置したものであり、このデータは、テレメータにより自治体に提供するとともに、石川県の原子力環境安全管理協議会等で参考として報告しています。



放水放射線モニターの系統概要図